



統合設定の管理

この章は、次の項で構成されています。

- [\[統合設定 \(Integration Settings\)\]](#) について, 1 ページ
- [構成管理データベースの統合](#), 1 ページ
- [計測データのエクスポート](#), 3 ページ
- [変更レコード](#), 3 ページ
- [システム ログ](#), 3 ページ
- [ストレージおよび OVF のアップロード](#), 5 ページ
- [複数言語のサポート](#), 5 ページ

[統合設定 (Integration Settings)] について

このメニューを使用すると、Cisco UCS Director で次の操作を実行できます。

- [アプリケーションストレージ情報のモニタリング](#)
- [CMDB 統合の設定](#)
- [OVF の管理](#)
- [測定レポートのエクスポート](#)
- [システム ログの表示](#)

構成管理データベースの統合

構成管理データベース (CMDB) は、システムの変更を追跡および管理するために使用されます。CMDB には通常、仮想マシン (VM)、サービス リクエスト、グループなどのリソースに対する追加、削除、または変更のイベント タイプが表示されます。

CMDB 統合の設定

手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] を選択します。
- ステップ 2** [統合 (Integration)] ページで [CMDB 統合セットアップ (CMDB Integration Setup)] をクリックします。
- ステップ 3** [CMDB 統合設定 (CMDB Integration Setup)] 画面で、次を含む必須フィールドに値を入力します

名前	説明
[FTP サーバにエクスポート (Export to FTP Server)] チェック ボックス	FTP サーバに変更記録をエクスポートするには、このチェック ボックスをオンにします。
[エクスポート形式 (Export Format)] ドロップダウン リスト	エクスポート形式の種類 (CSV または XML) を選択します。
[FTP サーバ (FTP Server)] フィールド	FTP サーバのアドレス。
[FTP ポート (FTP Port)] フィールド	FTP サーバ ポート番号。
[FTP ユーザ (FTP User)] フィールド	FTP ユーザ ID。
[FTP パスワード (FTP Password)] フィールド	FTP ユーザ パスワード。
[FTP エクスポート頻度 (FTP Export Frequency)] ドロップダウン リスト	変更記録を FTP サーバにエクスポートする頻度を選択します。
[FTP ファイル名 (FTP File Name)] フィールド	エクスポートされる変更記録のファイル名。ファイルがターゲット FTP サーバにエクスポートされるたびに、次の変数を使用して新しいファイル名を作成できます。 MONTH、WEEK、DAY、YEAR、HOUR、MIN、SEC、MLLIS 例 : XYZ-\$DAY-\$HOUR-\$MIN-\$SEC
[FTP のテスト (Test FTP)] チェック ボックス	FTP の設定をテストするには、このチェック ボックスをオンにします。

- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

計測データのエクスポート

計測データのエクスポートを設定することにより、VM リソースの使用率や、リソース アカウンティングの詳細などのトレンドデータを、サーバへエクスポートできます。

計測データのエクスポートの設定

手順

-
- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] を選択します。
 - ステップ 2 [統合 (Integration)] ページで [メータリング データ エクスポート セットアップ (Metering Data Export Setup)] をクリックします。
 - ステップ 3 構成管理データベース (CMDB) の設定に使用するフィールドに値を入力します。詳細については、[CMBD 統合の設定, \(2 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

変更レコード

変更レコードの表示

最大 1,000 件のレコードを表示できます。レポートのリストは降順で表示され、最近のレポートが上部の行に表示されます。

手順

-
- ステップ 1 [管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] を選択します。
 - ステップ 2 [統合 (Integration)] ページで [変更レコード (Change Records)] をクリックします。
-

システム ログ

システム ログ (syslog) 情報を設定されたサーバに転送できます。各システム メッセージは重大度レベルに関連付けられます。ターゲットサーバに転送するシステム ログの重大度レベルを決定できます。

システム ログの設定

手順

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [統合 (Integration)] を選択します。
- ステップ 2** [統合 (Integration)] ページで [Syslogs] をクリックします。
- ステップ 3** [Syslog 転送の有効化 (Enable Syslog Forward)] チェック ボックスをオンにし、次を含む必須フィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[重大度の最小値 (Minimum Severity)] ドロップダウン リスト	どの重大度メッセージが syslog サーバに転送されないかのしきい値を下記から選択します。
プライマリ Syslog サーバ	
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	プライマリ サーバのアドレス。
[プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト	プロトコル (UDP または TCP) を選択します。
[ポート (Port)] フィールド	ポート番号。
[Syslog メッセージフォーマット (Syslog Message Format)] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 (XML またはプレーン テキスト) を選択します。
セカンダリ Syslog サーバ	
[サーバのアドレス (Server Address)] フィールド	セカンダリ サーバのアドレス。
[プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト	プロトコル (UDP または TCP) を選択します。
[ポート (Port)] フィールド	ポート番号。
[Syslog メッセージフォーマット (Syslog Message Format)] ドロップダウン リスト	メッセージの形式 (XML またはプレーン テキスト) を選択します。

- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

ストレージおよび OVF のアップロード

管理者、グループ管理者、またはエンドユーザがアップロードしたファイルの保管場所を設定できます。アップロードされたファイルをローカルに保存するか、または外部 NFS 共有マウントポイントを保存先として設定することができます。システムの管理者は、ネットワークファイルシステム (NFS) の場所を設定できます。

ファイルアップロード機能を使用して、管理者、グループ管理者、またはエンドユーザ (サービスエンドユーザポータル) は、オープン仮想化フォーマット (OVF) ファイルをローカルストレージまたは外部 NFS 共有マウントポイントにアップロードすることもできます。詳細については、『Cisco UCS Director OVF File Upload Guide』を参照してください。

複数言語のサポート

Cisco UCS Director は、次の言語の同時表示および入力をサポートしています。

- 英語 (米国)
- 日本語 (日本)
- スペイン語 (ラテンアメリカ)
- フランス語 (フランス)
- 韓国語 (韓国)
- 中国語 (中国)
- ロシア語 (ロシア)

すべての入力フィールドで、ユーザが選択した言語でのテキスト入力をサポートしています。

管理者は、特定のユーザをシステムに追加する際にそのユーザ用に言語設定を指定できます。詳細については、[ユーザの追加](#)を参照してください。また、システム内の各ユーザがユーザインターフェイスの言語を選択できます。詳細については、次を参照してください。[ユーザインターフェイスのロケール設定](#)、(6 ページ)

Cisco UCS Director 用言語の選択

Cisco UCS Director 用のユーザインターフェイスの言語は変更できます。

手順

-
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [ユーザインターフェイス設定 (User Interface Settings)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザインターフェイス設定 (User Interface Settings)] ページで [言語 (Language)] をクリックします。
- ステップ 3** [言語 (Language)] ドロップダウン リストから言語を選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
- 重要** 言語の変更を有効にするためには、システムを再起動する必要があります。
-

ユーザインターフェイスのロケール設定

システムのユーザとして、ユーザインターフェイスに指定の言語を選択できます。この言語設定は、自身のログインセッションだけに設定され、他のユーザ用の言語選択には影響しません。

手順

-
- ステップ 1** 画面の右上隅に表示されているユーザ名をクリックし、[プロフィールの編集 (Edit My Profile)] を選択します。
- ステップ 2** [プロフィールの編集 (Edit My Profile)] 画面で、[言語 (Language)] ドロップダウン リストから言語を選択します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
ユーザインターフェイスの言語が即時変更されます。
- (注) [言語 (Language)] ドロップダウンリストと [保存 (Save)] オプションが表示されない場合、ブラウザのキャッシュをクリアして、Cisco UCS Director を再起動する必要があります。
-